

副理事長 大石 佑介

1959年、戦後復興後期から高度経済成長期へと差し掛かる時代に八女地区の熱い想いを持った若者が集まり八女青年会議所が設立されました。当時の日本を想像してみると、戦後復興の最中にあり、物もお金も無く、経営環境も現在より厳しいものであったことは想像に難くありません。その中でも先輩諸兄姉は「明るい豊かな社会」を目指し日々の運動に励んできました。その意思を受け継ぎ、我々JAYCEEは青年経済人として、新型コロナウイルスのパンデミックに伴う未曾有の経済危機に立ち向かいながらも、地域のリーダーとして八女の課題に取り組んでいかなければなりません。

まず、私は副理事長として理事長の考えを十分に理解し、全てのメンバーに対してその考えを落とし込みます。そして、八女JCの運動に参加する意義を伝えることで参加率の向上に努めます。さらに、共に考え、意見をぶつけ合うことでよりイノベティブなアイデアを生み出し地域社会の課題の解決に取り組んでいきます。また、時代の変遷とともに八女JC内では比較的所属歴の浅いメンバーが増えてきました。所属歴が長ければ良いというものではありませんが、40歳での卒業までの時間が短くなっているため、優秀なリーダーを育成するためにはより効果的かつ効率的な研修を行う必要があります。そして、私がこの6年間で先輩から受け継いだ八女JCの文化やリーダーとしての学びを、活動を通して若いメンバーに引き継いで参ります。

意識を統一し同じ方向に向かって突き進むこと、また個々のリーダーとしてのスキルを高めることで八女JCの持つ力は最大化され、運動を通じて地域にその価値を示すことができます。地域社会の新しい未来へと突き進むため、我々JAYCEEは若きリーダーとして勇往邁進して参ります。

副理事長 井上 元太

2020年、新型コロナウイルスは全世界を感染の渦へと巻き込み、社会的、経済的な危機を引き起こしながら、今なお収束の目途が付かず私たちの生活に多大な影響を与えています。また、豪雨災害等の自然災害が日本各地で毎年のように甚大な被害を及ぼし、大きな不安を抱えながら生活することを余儀なくされている人々も少なくありません。急激に変化する時代の中で、私たちは「明るい豊かな社会の実現」という創始の理念を忘れず、こんな時代だからこそ私たちが先頭に立ち、時代に即した運動を展開していかなければなりません。

まずは誰一人取り残さない持続可能な八女地域を実現するために地域の課題を検証した上で課題解決に向けて地域に住み暮らす人々の意識を変革し、共に取り組んでいく必要があります。そして、地域の宝である子供たちが変化の著しい時代においても豊かな道徳心を持ち、目標に向かって前向きに取り組んでいく意識を醸成するために子供たちの心の教育に取り組まなければなりません。さらに、私たちJAYCEEは地域のことを想い、地域を牽引するリーダーへ成長することが求められており、メンバーに対して学びの機会を数多く提供することでリーダーシップを備えた人財の育成につなげていきます。また、私たちの運動が効果的で影響力のあるものとなり、地域の発展に寄与する多くの人財を育成するためにも会員の拡大に引き続き積極的に取り組んでいく必要があります。副理事長として自身の経験やJCの魅力をメンバーに伝え積極的に参加を促すとともに、理事長の想いをメンバーに落とし込み本年の活動・運動に一丸となって邁進していく体制を構築します。

「勇往邁進」私たちが信じる理念のもと一致団結し、勇気を持って突き進んだ先に新しき未来が切り拓かれ、誰もが夢と希望を抱ける持続可能な社会が実現できます。私たちJCが地域を牽引する先駆者となり、地域により良い変化を与えるために何事も恐れず挑戦してまいります。

第一室 室長 高山 泰輔

私たちは1959年の創立以来、地域の課題と常に向き合いながら青年会議所の掲げる理念「明るい豊かな社会の実現」に向けて運動を展開してきました。昨今では地球温暖化や少子高齢化社会、仕事と家庭の両立が問題視される一方で、地域や企業が取り組むSDGsや急速なデジタル化によるWEB利用の広がり、ワークライフバランスといった働き方の多様化が注目を集めています。よりよい新しい八女地域を創るためには、時代のニーズや地域の特性を活かした持続可能な運動を展開し果敢に挑戦する必要があります。

本年度、第一室は地域活性化委員会と例会研修委員会で構成され、両委員長が考えるよりよい未来の実現を後押しし最大の結果が出るように尽力します。地域活性化委員会では、地域の環境課題にSDGsを取り入れ、持続可能な八女地域の実現に向けた事業を構築していきます。八女地域は豊かな自然に囲まれています。第一次産業の後継者不足や放置竹林の拡大化、自然破壊によって引き起こされる土壌劣化や生態系変化が問題視されています。八女地域に住み暮らす市民一人ひとりが全国に誇れる豊かな自然を大切に想い地域への郷土愛を醸成します。例会研修委員会では、例会を通じて八女JCが進む指針を確認するとともに、メンバー同士の絆を深めて自分とは違う感性や考え方を学ぶ機会とします。研修事業では、一人ひとりがリーダーとして統率力や指導力を学び、リーダーとして失敗を恐れず自己研鑽に努めることで地域を牽引する人財へと成長する機会とします。

私たちは八女地域の「明るい豊かな社会の実現」のために、臆することなく一心に突き進んでいきます。地域の課題解決に向けて新たな手法で果敢に挑戦し、地域のリーダーとして成長することで地域に必要とされる人財となり、魅力ある持続可能な八女地域を実現します。

第二室 室長 野中 克則

八女J Cは1959年の創立から61年の歴史があり、この歴史は先輩諸兄姉の熱い想いが脈々と受け継がれてきた証であることを忘れてはなりません。様々な逆境や困難を乗り越え、「明るい豊かな社会の実現」という揺るぎない信念のもと運動を継続してまいりました。2020年は全世界に拡散した新型コロナウイルスにより人々は苦境に立たされており、生活様式など様々なことが急激に変化する中で、子供たちの未来が明るい笑顔で溢れたものとなるために私たち八女J Cは社会の変化に対応しながら課題を見つけだし運動を展開していくことが必要です。

本年度第二室はヤングフォーラム委員会にて構成されており、地域の宝である子供たちを育成する事業に取り組んでまいります。変化する時代の中で、子供たちは様々な困難を経験し、どのようにして立ち向かうのか選択の連続です。また、IT化が進む中でコミュニケーションの形態も変化し、利便性が良くなった反面、文章だけのやり取りやSNS等による誹謗中傷など、モラルの問題やコミュニケーション能力の低下にもつながります。そのような状況において相手に対する思いやりなど心の在り方を学ぶ徳育やJ Cが推進しているSDGsの仕組みを活かした事業を展開します。お互いが切磋琢磨することで友情や助け合いの意識が芽生え、困難な状況においてもお互いが手を取り合って何ごとにも立ち向かう心を育み、子供たちの未来の可能性を切り拓きます。夢や希望が溢れる子供へ成長を遂げた先には、誰一人取り残さない八女の子供たちの明るい未来が待っていると確信いたします。

本年度理事長が掲げる「勇往邁進」のもと、どのような状況においても勇気を持って突き進むことで八女J Cとしてさらに成長し、地域を変革する魅力的な事業の構築へとつながっていきます。このJ C運動・J C活動を継続し5年後10年後の八女地域と八女J Cの明るい未来の発展のために邁進してまいります。

地域活性化委員会 委員長 橋本 雄大

2021年、新型コロナウイルスの感染拡大や自然災害の発災により私たちを取り巻く環境や生活様式、限りある自然への考え方は急速に変化しています。豊かな自然に恵まれた八女地域ですが、少子高齢化や後継者不足といった課題により人工林の放置や放置竹林の面積は増加し、問題とされる生態系変化や土砂崩れの要因となっています。地域の自然を守るために、市やまち、住み暮らす人々とともに地域に合った目標を設定し積極的に取り組んでいく必要があります。そして、多くの人々が豊かな自然に魅力を感じ、誇りに思い、郷土愛の意識が醸成できる仕組み創りを行っていかねばなりません。

本年度、地域活性化委員会は八女地域ならではの豊かな自然と温かい人と人との関わりを発信できる事業を構築していきます。まず、八女地域の人々を対象として竹林や竹細工といった全国に誇れる伝統文化を深く知っていただくとともに、放置竹林や担い手不足といった課題も認識していただきます。課題解決に向け新しい手法と発想で挑戦し、私たちが住み暮らす八女の魅力を地域全体で発信することでまち全体の郷土愛醸成につなげます。そして、人とのつながりや生活様式の変化、他者への関心が希薄傾向にある中だからこそ、人と人の温かいつながりを創らなければなりません。一人ひとりが協力し合い、八女の明るい未来を目指して多くの方が私たちの住み暮らす八女地域のことを誇りに思い、郷土が抱える問題を地域全体で考え向き合うことで、人とまちとがつながることができると思います。

私たちの住み暮らす八女地域の「明るい豊かな社会の実現」に向けて、郷土が抱える諸問題の解決を目指して人と人につながり、新しい手法を考えて挑戦していくことで郷土愛に溢れた八女地域を形成することができると確信しています。地域を想う八女J Cのメンバーと他団体、行政との連携を取り、人々とまちがつながる事業を構築し、より魅力的なまちへの発展に向けて全力で邁進してまいります。

例会研修委員会 委員長 梶山 広志

近年、新型コロナウイルス、災害、少子高齢化など様々な要因により社会情勢は劇的に変化しています。そのような中、地域が発展し「明るい豊かな社会の実現」のためには、私たち J A Y C E E が 指導力、統率力を持ち、強いリーダーとなり地域を牽引しなければなりません。近年、八女 J C の会員数は増加傾向にありますが、その分、入会歴の浅いメンバーが多くなっています。そのため、J C に対する意識の違いが生まれ、組織の団結が薄くなつては、地域を牽引することができません。地域を牽引するために、若いメンバーを育成し、例会、事業に参加することで、自己研鑽し、モチベーションの違いを無くし、J C 運動への理解を深め地域に必要な団体になる必要があります。

J C における成長の場は、まずは例会にあります。その成長の場を有効に活用するため、入念なりハーサルを行い例会のスムーズな設営、進行に努めます。例会はメンバーが一堂に会し、理事長の話を聞くことで八女 J C の方針を確認し、他者の自分とは違う考えを学ぶことで見識を深め、セレモニーを通じて立ち振る舞い方を学ぶこともできます。そして、やむを得ず仕事の都合等で例会に出席できず、成長の機会を失わないよう例会への W E B で参加、録画配信を企画し、出席率の向上に努めます。また、委員会タイムを活用し、八女 J C の先輩方をはじめとした地域の先頭に立たれる方の講習等を行い成長の機会を提供し、リーダーの育成に努めます。研修事業においては、S D G s 研修、リーダーシップ研修を行い地域に必要な人財になれる事業を構築します。

例会、事業を通じて同じ目標を共有したメンバー間の絆が深まることで団結した組織が形成され一人ひとりが成長しリーダーシップを持ち、地域の課題に積極的に取り組み、地域に必要なとされる団体になります。そして、私たち J A Y C E E が八女地域を牽引し「明るい豊かな社会の実現」できる人財へととなります。

ヤングフォーラム委員会 委員長 山下 泰広

2020年、全世界へと拡散した新型コロナウイルスは世界そして日本中を未曾有の困難へと陥れました。私たちが住み暮らす八女地域も例外ではなく、4月7日に発令された緊急事態宣言後、小中学校などの教育機関は長期にわたり臨時休校となり家族との時間が増えた一方で、友人同士で遊ぶことを制限され、コミュニケーションが取りにくい1年となりました。また、八女地域は少子化、都市部への移住等により子供たちが減り続けており、地域の宝である子供たちが将来八女地域を支える人財となるためにも地域全体で子供たちの教育に取り組むことが必要です。

子供たちがこれから訪れる未来に夢や希望を持てるように、私たち八女J Cは学校や家庭だけでは十分に行き届かない子供たちの心の教育に取り組むことが重要だと考えます。本年度は子供たちが同じ時間を共有しつつ、子供たち一人ひとりがお互いに助け合いコミュニケーションを取りながら1つの大きな目標を達成することで思いやりの大切さや協力して成し遂げる喜びと達成感を実感できる事業を展開します。その過程で、子供たちが八女地域の良さに触れ合うことで郷土愛を育み、将来八女地域に定着し地域の発展に寄与する人財へと成長することにつながっていきます。また、豊かな道徳心とコミュニケーション能力を育み、地域を思い率先して行動する人財を育成することで八女地域の永続的な発展へとつながっていきます。さらに、八女J Cが地域の青少年育成事業において担うべき役割をメンバー一人ひとりが考える機会とし、八女J Cの今後の飛躍につながる1年とします。

地域にとって子供たちは未来への大きな希望です。私たち八女J Cが共通の意識を持ち、子供たちの教育に取り組むことで知・徳・体の調和がとれた地域の将来を担う人財の育成へとつながることを確信します。本年のスローガン「勇往邁進」を心に刻み、「明るい豊かな社会の実現」に向けて全力で運動を展開し信じる道を突き進みます。

会員拡大連絡会議 議長 梅本 昭仁

これまで会員拡大において様々な取り組みが行われ八女Cにおいてはここ数年、会員減少には歯止めがかかっているものの会員数は全盛期に比べ半数以下となっています。これ以上の会員数の減少は事業の縮小を招き、事業の効果を最大化することはできません。地域により良い変化を与える事業を構築するためにも地域と人の未来を想うことのできる人財を発掘し多様なアイデアを生み出す必要があります、会員拡大は継続して取り組まなければならない重要な運動のひとつです。

本年度は各委員会の副委員長に会員拡大連絡会議に出向していただき運営いたします。毎月開催する拡大会議において各委員会から拡大候補者の情報を収集し、リストの更新を行うとともに候補者に対しアプローチ方法を議論し、迅速に行動することで入会へとつなげていきます。また、各副委員長の協力のもと所属する委員会のメンバーに拡大状況や会員拡大の重要性について落とし込み、メンバー一人ひとりが拡大に対して高い意識をもち、自主的に拡大に取り組む体制を構築します。そして、会員拡大に成功するためには入会したメンバーの定着も大きな担いの一つであり、退会者を出さないために例会や事業等様々な場面に積極的に参加を促し、メンバーとの交流を深めるとともにJCに対して魅力を感じてもらえるように取り組んでまいります。また、担当する家族懇親会においては新たな仲間とともに企画から運営まで行い、JCの楽しさ、やりがいを伝えていきます。

新たな仲間を獲得し、掲げる目標に向かって失敗を恐れず一丸となって突き進んでいくことで、地域に変革をもたらすと同時に、メンバー一人ひとりの大きな成長へとつながります。地域を牽引するリーダーへと成長した多くのJAYCEEが地域を想い、自ら行動することで八女地域の「明るい豊かな社会の実現」につながると確信いたします。

渉外特別会議 議長 堤 宣之

八女JCは1959年に設立以来、61年にわたり「奉仕」「修練」「友情」の三信条のもと、「明るい豊かな社会の実現」のために様々な運動を邁進してまいりました。礎かつ指針となっている先輩諸兄姉の強い志と行動に敬意を表しつつ、新たな発想を加えて次世代に継承していくことが私たちの使命だと考えます。しかしながら2020年、新型コロナウイルスによる未曾有の危機により、大多数の国が深刻な状況にあり、私たちJCにとってもほとんどの事業が中止、延期となるなど多大な影響を及ぼしました。数々の困難に直面しつつも恐れることなく変化と向き合い勇ましく突き進む必要があります。

まずは、出向しているメンバーとともに活動内容を把握し、それぞれの事業が持つ目的や意義をメンバーに伝え、その価値を認識することで参加意識の向上につなげます。そして、徹底した情報収集を行い事業の魅力発信に努め、目的意識をもって事業に参加してもらい、参加することで得られる知識や経験の還元、新たな出会いによるメンバー同士の関係づくりの構築に努めます。活動の中には多くの学びと同士意識を持つ仲間との交流が広がっており、運動を通じての経験が人生にとって大きな財産となり、成長や変化をもたらします。また、このまちや人を思い、同じ地域で活動する青年経済団体など、同じく地域を担う団体と対話し、事業を通して協働していくことで、連携体制をより強固なものとし、従来の枠組みに捉われない新たな仕組みづくりが必要です。

「勇往邁進」柔軟な発想や多様な視点から未来に向かって挑戦を恐れず突き進むことで地域の更なる発展につながります。また、垣根を越えた交流が多くの同士との新たなつながりや揺るぎない絆を生み出し、互いを高め合える関係が意識変革を加速させ、明るい豊かな社会の実現につながると確信します。

専務理事 井星 幸男

今、人類は新型コロナウイルスの影響により足止めを受けている状況である。東京オリンピックの延期や緊急事態宣言と数多くの活動が自粛させられた1年を過ごし、そんな状況でも会員の拡大や新型コロナウイルス対策の事業を行ってまいりました。2021年はwithコロナ対策が必要とされる運動や活動になると考えています。さらに毎年のように全国各地で災害が起き、大きな被害を受けている状況です。今一度、「明るい豊かな社会の実現」のために大きな一步を踏み出す時と考えます。

本年度は、「ひと」と「まち」の未来を考え行動できる組織作りやメンバーの意識の向上、そして新たな仲間を増やしていき確実な実績を積み上げていく年になります。理事長の勇往邁進というスローガンを元に理想の活動や運動の実現を目標に円滑な行動をとれるよう、報告・連絡・相談を運営グループで構築していきます。円滑な連携こそが新型コロナウイルスや災害以外にも予測できない出来事に対応できる行動がとれると考えます。そして、数多くの出向者を輩出していく事により、日本・地区・ブロックと全国各地の活動を把握し、運動のサポートをLOMで行っていきます。出向者の学びをメンバーと共に共有することが、新しい時代の動きや環境の変化に対応できる組織作りへつながります。さらに専務理事として、メンバー全員と理事会や例会を通じ情報の共有とスケジュールの確認を確実にいき、他LOMや各団体との連携やスケジュールの調整を行っていきます。

新型コロナウイルスによる活動自粛の中、更なるひとづくり・まちづくりをメンバーが一丸となり確実に行うことで、10年後20年後の日本を支える八女地域になれるよう、自粛解除を待つのではなく時代の先駆者となるために信念を持ち、研鑽し、集い、力を合わせ行動していく事が勇往邁進につながると確信いたします。

常務理事 古賀 政啓

私たち八女J Cは創始の理念である「明るい豊かな社会の実現」のもと、地域を牽引するリーダーとして今日まで先輩諸兄姉の想いを受け継ぎ、地域が抱える問題点にスポットをあて、運動を行ってまいりました。しかしながら、2020年の新型コロナウイルスの流行は地域力や生活様式のみならず、私たちの運動についても大きな変化をもたらしました。そのような大きな時代の潮流に柔軟に対応し、私たち八女J Cは持続可能な八女地域の実現に向け運動を展開して行く必要があります。

まずは、理事長の想いを全面的に把握し運営グループの一員として下支えするとともに専務理事のサポートを行うことでLOMの運営がより円滑なものとしてまいります。また、運営グループ、室長、各委員長間とのきめ細やかな連携及び調整を行うことで日本J C、九州地区協議会、福岡ブロック協議会の事業及び各種大会の情報をメンバーへ発信してまいります。そして、自身も参加し参加できなかったメンバーに対しても内容を伝えフォローを行っていくことでLOM内の活性化を図ってまいります。さらに、本年度担当であるJ Cニュースの作成にあたり本年度の卒業される先輩方、各出向者、各委員会、そしてこれから入会する新入会員の想いを込めたものを作成していくことでシニアクラブ及び関係各所等に向け私たちの運動を発信するだけでなく、八女J Cが未来へ突き進むための一助となるとともに今後の八女J Cの未来への架橋となれるよう取り組んでまいります。

時代は大きな変化を迎えており、私たちはその岐路に立たされております。本年度スローガンである「勇往邁進～新しき未来へ突き進む～」のもと、よりよい八女地域の実現に向けたビジョンを創造し、失敗を恐れず突き進まなければなりません。メンバー全員が失敗を恐れず、一人ひとりが高い意識と確たる信念、勇気をもって突き進むことで明るく素晴らしい持続可能な八女地域を創造することができると確信しております。

事務財政局長 木下 雄一郎

2020年度は新型コロナウイルスの流行により世界中が経済に打撃を受け、人々の生活様式が一変し、我々八女JCもほとんどの事業が中止・変更を余儀なくされました。そして、その困難の中でも新しい技術や手法を取り入れ、運動・活動を行うことで、「明るい豊かな社会の実現」に向けて歩みつづけた挑戦の1年でもありました。この経験を活かし運営グループ及び広報担当者としての責務を果たしていかなければなりません。

まずは運営グループ内での情報共有と連携を高めることで、各種会議の適切な運営と事業構築のサポートを行います。事業はJC運動の根幹であり、その事業予算はメンバーから頂いた貴重な会費によって成り立ちます。事務財政の担当者として会費の徴収、予算の管理を適切に行うとともに、財政面での不備、特にコンプライアンス上の問題が発生しないよう、各担当者との綿密な打ち合わせを行い、事業のクオリティアップを目指します。また近年、SNSや動画配信での広報は会社から個人活動まで分野を問わず必須となっており、青年会議所においても同様のことが言えます。各委員会や両会議とも協力しあい、各種SNS、YouTube、ホームページを活用し、頻度の高い情報発信を実行します。また同時に全メンバーに広報の手法と重要性を認識していただき、八女JC全体で広報活動を行える体制を構築することで、継続的な八女地域のアピールと会員拡大を目指します。

スローガン「勇往邁進～新しき未来へ突き進む～」のもと失敗を恐れず挑戦的な広報を行うと同時に、事務財政の面では冷静な判断で他のメンバーの挑戦を支えていきます。運営グループの一員として、この担いを全うすることが八女JCの地力を向上させ、八女地域の「明るい豊かな社会の実現」に近づく、そう確信します。

事務財政局次長 木下 徹郎

八女J Cは1959年の創立以来、先輩諸兄姉が「明るい豊かな社会の実現」に向け奉仕・修練・友情の三信条のもと邁進してきました。現代の我々は新型コロナウイルスによる甚大なる影響を受け、ほとんどの事業が制限されましたが、その限られた条件の中、試行錯誤し歩みを進めてきました。その歩みを八女地域へ広く拡散し認知を得ることで、地域からの理解や 様々な事業への協力や事業参画へと繋がり、共に進む事で「明るい豊かな時代」が生まれるのです。

まずは、事務財政局次長として事業予算は、会員一人ひとりの貴重な会費によって成り立っていることを念頭に置き、その限りある大切な予算が効率良く使われるように助言・精査し、コンプライアンス違反を犯していないか詳細にチェックして法令を遵守した議案構築に努めます。また、運営グループの一員として専務理事、常務理事、事務財政局長への報告・連絡・相談をきめ細やかに行い運営の円滑化を図り共に歩む仲間をサポートします。そして、各議長及び委員長とは多くの意見を交えることで、事業の背景目的を理解します。運営グループとして数多くの場に率先して参加し、その場の状況を自ら感じ取る事で、特に歴の浅いメンバーに対して事業によって得ることができる学びとは何かを説明し参画を促して、成功への架橋役として共に努めてまいります。さらに、八女J Cの多くの活動・運動をSNSを利用し拡散することで地域へのアピールそしてメンバーの意識の高揚へとつなげて参ります。

誰しも失敗は付きもの、失敗を恐れずメンバーが活動できるように事務・財政・広報という 担いを財政局長の下、共に全うしJ Cメンバーの地力の向上、八女地域の「明るい豊かな社会の実現」のために勇往邁進してまいります。